小教区45周年と眞浦神父様銀祝ポスター 子供達作成 9月21日

島のひかり ホームページアドレス
http://lifeaidgoto.jpn.cx/simanohikari/

島のひかり

発　行
カトリック浦頭教会
広報委員会
五島市平蔵町2716
TEL 0959㉓0072
印　刷・㈲才津印刷所

国体選手

主任司祭　岩崎　晋吾

今年、長崎がんばらんば国体が開催される。（十月十二日～二十二日）この原稿は国体直前に書いているのだが、ひょんなことから私も国体選手になってしまった。特に優れた運動能力をもっているわけではない。出場するのはペタンクという「デモンストレーションとしてのスポーツ行事」という部門の競技である。

この部門、エントリーするだけで出場できるということで私もいつの間にかエントリーされており、国体選手になってしまったというわけである。ペタンクとはフランス発祥のスポーツでいわゆるグランド上のカーリングと思っていただければよいだろう。

五島市や奥浦地区では頻繁に大会が行われており小さい子供から高齢者まで共に参加し楽しむ事が出来るものだ。

しかし、もうすぐ国体が始まるというのに本人は練習を全くしていないという有様である。共に出場するチームメイトたちは毎日のように練習しているのに…当日迷惑かけること必至である。

であるから国体選手と呼ぶには名ばかりで出場する事が他の選手の皆さんを冒とくしているようで心が痛む。

自分でも自分自身の事が国体競技に出る国体選手のようであってそうでないような中途半端な存在だと感じているのである。そのような自分を見てふと思ったのは、現代、このような存在は社会の中にも増えてきているなということだ。日本に住んでいるが国民と認められない「外国人移住者」企業で働くが帰属しているかどうか分からない「非正規社員」信者であるが教会共同体に交わっていない「信仰者」これら中途半端な存在には何か理由がある。本人だけの問題でない深い原因がある。

私の中途半端は別の話だが。

小教区四十五周年の歩み

司祭館工事が着々と進む

五島キリシタンの誇りであり私達小教区信徒の象徴である堂崎天主堂は、一九〇八年献堂後の月日の流れとともに老朽化が進み、海路から陸路への交通事情の変化にも配慮し、浦頭を新天地とした新聖堂建設計画が立てられました。

当時の堂崎小教区主任司祭松下佐吉師と信徒一同が心血を注ぎ努力を重ねた浦頭教会が、小高い丘の上に聳え立ったのは一九六八年五月十日でした。

松下佐吉師

翌年一九六九年五月福江教会助任司祭、浦頭教会付きとして野下千年神父様が着任されました。

浦頭小教区設立はその半年後の一九六九年九月四日主任司祭野下千年師で、松下神父様は愛着ある堂崎の地に引退されました。

設立時の信徒総数は一一七〇名、現在の信徒数は四四二名であり、信徒総数はこの四五年間で四割にまで減少しています。

翌年には司祭館が完成し、ミサ典礼もバチカン公会議を受けラテン語から日本語になり、教会組織も使徒職評議会中心の組織体制に一変しました。

一九七二年には「島のひかり」が創刊されました。

本年七月号で発行二〇〇号を数え、合本号も発刊されます。

翌七三年には「平和のばら保育園」が開園し、地域の幼児教育や働く女性の支えの場となりました。

そしてこの年九月、浦頭小教区発足後初の司祭誕生の日を迎えました。

大泊出身の神言修道会浜口吉隆神父様が叙階され、川口清神父様より五年ぶりの慶事となりました。

七六年には「子羊の家」が完成し、青年の集いの場が提供されました。

一九七七年は初代マルマン神父様から始まった堂崎天主堂創設百周年記念祭として、記念ミサとともにアルメイダ宣教碑、ヨハネ五島像、マルマン・ペルー像除幕式が行われました。

同時に堂崎天主堂は教会堂としての役割に加え、県文化財に指定された「ドロ聖教木版画」や聖ヨハネ五島の聖骨も安置され、キリシタン資料館として新たなスタートを切りました。

一九七九年には小教区創立一〇周年事業として、信徒の一致と交わりの場「神羊館」が完成しました。

また同年、神言修道会浜口末明神父様が叙階されました。

小教区にとり神父様の兄である吉隆神父様に続く喜びであり、何より浜口庄吉・ツヨさんご夫婦のもとに育った浜口家からは、三人の司祭と一人のブラザー、二人のシスターが生まれています。小教区の誇りとするご家族だと思います。

一九八〇年には奥浦慈恵院が創立百周年を迎え、里脇枢機卿司式の記念ミサや福江文化会館での講演など行われました。

一九八一年は、日本カトリック信徒にとり最も記念すべき教皇様初来日の年です。記録的な大雪に見舞われた松山競技場でのヨハネ・パウロⅡ世教皇司式の記念ミサに、小教区からも二〇〇名以上の信徒が参列し会場を埋め尽くした四万七千人に及ぶ参列者とともに、信仰の思い

を一つにしました。

一九八三年には小教区初代主任司祭として一四年間司牧に尽くされた野下神父様にかわり、地元出身の川口善助神父様を二代目主任としてお迎えしました。

野下神父様の一四年は、教会の組織作りや施設建設において今日まで続く小教区四五年の土台作りに奔走された日々でした。

川口神父様は着任後さっそく、聖堂内に「大理石の祭壇」を設けられました。

一九八五年には、旧福江市初の名誉市民に奥浦慈恵院理事長のシスター木口マツさんが田口馬次市長とともに選ばれました。

同年八月一二日は小教区信徒にとり、忘れる事の出来ない悲しい一日となりました。

三月に司祭叙階を終えたばかりの赤尾孝信神父様が、引率の浦上教会神学生、侍者会の子供たちと六方海水浴場で遊泳中に、荒波に流された子供達を救助するために波間にのまれ、二六歳の若さで天国に召されてしまいました。

前日もわずか一時間余りの睡眠で、司牧の勤めに没頭されていたそうです。

神様の計らいは私達の思いも及ばないものですが、神父様の生涯は短くも司祭職の道をまっすぐに走り続けた生涯でした。

翌八六年には浦頭小教区発足直前までの二二年間にわたり堂崎小教区主任司祭を勤められ、一・円・天の思想で私達を厳しくも心温かく指導して下さった松下佐吉神父様が八九歳にて帰

天されました。

同年川口神父様は上五島曽根教会へ転任さて、平戸教会より片岡久司神父様が着任されました。

時は昭和から平成に変わり、一九九一年には奥浦修道院が赤瀬から浦頭の現在地に新築移転されました。

また遠くブラジルの地では、浦頭出身で日本初の海外宣教師であり現在ブラジルで列福運動も進む中村長八神父顕彰記念館が落成しました。

一九九二年には堂崎に、旧司祭館を活用した民族資料館がオープンします。

九三年には、コンベンツァル聖フランシスコ修道会より赤尾満治神父様が誕生しました。

一九九四年は小教区設立二五周年に当たり、二五周年記念誌発刊や教会入口門柱及び聖堂正面玄関の聖ペトロ・聖パウロ像の設置が行われました。

一九九六年には優しさ溢れる導き手であった片岡神父様が青砂ヶ浦教会へ転任され、平戸宝亀教会より橋口朝光神父様を迎える事になりました。

またこの年の一〇月には、奥浦慈恵院における児童福祉に生涯を捧げたシスター木口マツさんが九四年の生涯を全うされました。

マツさんの人生は、恵まれない子供達への慈しみとともに先見性をもって医師養成にも努めた、神様の導きに添い遂げた生涯でした。

翌九七年には、小教区より山本一郎神父様が誕生します。

そしてこの年一九九七年には日本二六聖人殉教四〇〇周年を記念して、島本大司教司式の野外ミサが堂崎天主堂広場にて挙行されました。

一一月二日のミサでは浦頭教会より堂崎天主堂まで、二六本の十字架とともに二六聖人に扮した信徒と多数の参列者が歩き続け、広場での御ミサに臨みました。

二六聖人の苦難にひたすら近

づかんとする感動的な御ミサとなりました。

一九九九年から二〇〇〇年にかけては、三か月余りをかけて堂崎天主堂の大規模修復が行われました。

天主堂は塩害にさらされており、内部の漆喰塗り替えにより文化財としての価値を保っていかなければなりません。

また二〇〇一年には、神羊館防水シートの張り替えや司祭館内部の改修工事も行いました。

教会堂・司祭館・神羊館など老朽化していく施設の維持管理は、今後の小教区における大きな宿題です。

二〇〇三年には小教区二代目主任司祭川口善助師が、九三歳で帰天されました。

堂崎伝道学校卒業後、五〇年余りに及ぶ司牧の道を全うされました。

二〇〇四年、橋口神父様は八年間小教区で持ち前の明るさをもって活躍された後、上五島真手ノ浦教会へ転任され、大村水主町教会より山川忠神父様をお迎えしました。

この年は私たちの町が福江市から五島市に変わった合併の年でもあります。

翌年山川神父様は佐世保俵町教会に転任され、佐世保天神教会より眞浦健吾神父様が着任されました。

二〇〇六年、約百年にわたり堂崎赤瀬の地で子供たちを慈しみ育て続けた奥浦慈恵院は老朽化のため解体され、一〇月浦頭の地に奥浦慈恵院新院舎が完成の日を迎えました。

二〇〇七年には六五歳以上の信徒を対象にシメオン・アンナ会が発足し、その巧みなタレントにより今日まで小教区運営に力を頂いています。

また教会堂においては、永年地域のランドマークであった屋上十字架の架け替え工事を行い、安全に配慮した二代目十字架となりました。

翌二〇〇八年、堂崎、浦頭両小教区で永年カテキスタとして信徒の導き手であったシスター中村鈴代さんが七二歳で帰天されました。

病気がちの一生を神様に捧げ尽くした尊い生涯でした。

二〇〇八年は、一九〇八年献堂の二代目堂崎天主堂献堂百周年の記念すべき年です。五月一一日には記念事業のフィナーレを飾る教会広場での野外ミサが、一二〇〇名余りの祈りのなかで行われました。

（次号に続く）

四十五周年事業 祝賀式

九月二十一日、銀祝を迎える眞浦神父様も招いての、記念ミサが喜びの内に執り行われた。

当日は、ミサに先立って典礼委員から小教区四十五年の歩みが朗読され、その後、経済委員会から、四十五周年事業の概要、収支決算等が説明された。

司式は、下口神父様、眞浦神父様、岩崎神父様、山本神父様、浦頭教会が特にお世話になっている神父様方が一同に集まり、小教区の信徒に祝福を与えて下さった。

ミサ後には、銀祝を迎えた眞浦神父様が涙ながらのお礼の言葉を、ユーモアも交えながら語って、聖堂は笑顔と拍手に包まれた。

その後、髙見大司教から、二〇〇号を迎えた島のひかりに表彰状が授与され、ミサ後の祝賀会へと引き継がれていった。

眞浦神父様銀祝

小教区四十五周年記念式典と同日、前浦頭教会主任司祭であり、現在長崎カトリック神学院院長である眞浦神父様をお招きし、小教区で銀祝のお祝いを行いました。

お祝いはミサ内の祝賀会と神羊館での祝賀会に分けて行われました。祝賀式では花束、霊的花束を小学生時に神父様にお世話になった中学生から、お祝い金を女性会会長より贈呈しました。神父様からの感謝の言葉として頂いた内容は司祭生活の約四分の一となる六年間を浦頭小教区で活動した内容でした。

当時は小教区内では改修工事や堂崎天主堂百周年等財政面で信徒と一緒に考えられ、行動していった時期でした。思い起こせば神父様と同様なつかしくもあり、目頭に涙がこみ上げる記憶が数多くあります。

眞浦神父様には健康に気を付けて、これからもご活躍して頂きたいと思います。

眞浦健吾神父様、銀祝おめでとうございます!!

音訳者養成の取り組み

下五島地区教会ボランティアセンター
事務局　赤尾　栄

下五島地区教会ボランティアセンター（指導司祭岩崎神父様代表鍋内絹恵）今年五月の設立後最初の取組みは、講演会開催でした。酒井孝子先生の講演で「いのちのお話」でした。次が音訳者養成講座でした。音訳とは、視覚に障害がある方へ（文字が見えない、目が疲れて読めない等）印刷された物、書かれた物を読む事が出来ない人の代わりに、読みそれを録音して聞いてもらう事を目的として録音する事です。その為の音訳講座を開催致しました。福江、浦頭、水の浦、三井楽小教区より二十六名の受講者が音訳の研修に取り組みました。朗読でもなく、ナレーションでもない音訳にとまどい終了しましたが、録音図書を作れるまではまだまだ研修に時間がかかるのではないかと思いますが研修を続けて早く必要な人に提供出来る様に皆で頑張ります。実際に聞いてもらいいろいろと意見を聞く事により次に進めるのではないかと思います。どのようなものか聞いてみたいと連絡頂ければ練習して音訳し、お届けしたいと思います。今のところ各小教区毎に活動して行く予定ですので鍋内絹恵、赤尾栄まで連絡いただければ幸いです。

宜しくお願い致します。

秘跡

《結婚》

後藤　隆介
アグネス　浦口　希望
（七月二十日）

松岡　賢志
ヨゼフィナマリア　柿山　直子
（八月二日）

《帰天》

マリア　出口　ミト
（八月三十日）

こどものひろば

もくそう会で、おおうらてんしゅどうにいきました。たのしかったです。　二年浜崎かな多

おおうらてんしゅどうに行けてたのしかったです。
二年　木口　空斗

しょうじき、きつかったけどたのしかったです。
二年　鍋内　楓蓮（かれん）

わたしは、おおうらてんしゅどうに行ったのと、おおうらてんしゅどうで、ごはんをたべたのが、たのしかったです。
二年　白はま　ゆう

たのしかったです。また行きたいです。　二年　小田りん花

大うら天しゅどうは、ふるくてけっこうとしよりきょうかいで、すごいなと思った。
二年　なべ内　り子

わたしは、大うら天しゅどうに行くまでに、フェリーにのってつかれたけど、れきしのある教会に行けてうれしかったです。ごはんもおいしかったです。
三年　鍋内　玖怜彩（くれあ）

今年の黙想会は、長崎の大浦天主堂に行きました。そして、サンタマリア様の像を見ました。二回目だったけど、またサンタマリア様の像を見れて、うれしかったです。
五年　濱崎　沙也加

もくそう会で長崎に行くのは、初めてでした。なので船にのっている時間のほうが長かったです。でも自分の目で見たサンタマリアはとても心にのこりました。
五年　白濱　光玖（みく）

ぼくは、黙想会に参加して、感じた事は、まず、大浦天主堂は昔から残っているのに今までこわされなかったのが、すごいなぁと思いました。
五年　鍋内　凌空（りく）

ぼくは、黙想会で大浦天主堂に行きました。百五十年以上たつのでびっくりしました。中は百五十年以上たつわりにはきれいでした。二十六聖人の所に行こうとしていたけど、行けなかったのでくやしかったです。　六年　入口　駿一朗

ぼくは、黙想会に行きました。大浦天主堂に行きました。百年以上経っているのに中はすごいと思うくらいきれいでした。今年最後の黙想会は楽しかったです。
六年　鍋内　優海

お詫び

二〇〇号で、浜崎キクさんの死亡日が間違っていました。
誤　六月二十四日
正　六月二十三日
申し訳ございませんでした。

洗礼式を終えて

先日、皆様の祝福のもと、長男夏綺は洗礼の恵みを受け信徒の一員となることができました。

私達は幼い頃から身近に教会があって信仰の中で大切なことを学んできました。

子供達もこのような恵まれた環境の中で心も身体も成長していくことを願っています。

これから子供達が正しい道を進んでいけるよう守り導くことが親としての務めだと改めて考える一日となりました。

カトリック信者としてもまだまだ未熟ですので周りの方々に助けて頂きながら私達も成長していきたいと思います。
木口聖也

壮年会研修作業

浦頭小教区壮年会においては平成二十五年度から、二十六年度の二ヶ年計画で、教会の為に役立ち「目に見えるもの」を後に残そうと、教会内部の椅子、机の整備作業を実施した。

教会内の椅子、机は約百三脚あるが教会建造当時に配備されたもので、劣化、虫食いが激くて美観も損なわれていたことから、不具合の調整、研磨、塗装作業が行われた。

作業に当たっては、個々の得意分野を生かして「おやじパワー」で新しい息が吹き込まれて教会内も落ち着いて祈りができる色に仕上がった。

今回の研修作業で会員の意思疎通が図られ、壮年会活動を通じて小教区のため積極的に協力し盛り立てていきたい。

おたより

長きにわたり島のひかりを愛読させて頂きました事、厚くお礼申し上げます。私も、八十歳を迎えるに当たり終りを迎えたいと思います。編集部の御発展を祈ります。

長崎市泉町　太田　春枝

島のひかり発刊二〇〇号記念と知り、これまで継続出来たことは神父様方をはじめ、編集部の方々、多くの方々の御苦労と努力のおかげだと、心から感謝しております。

天草市大江修道院
Sr　赤尾　スミエ

感謝

――香典返し――

カトリック浦頭教会へ
出口　武士様　　大阪
（亡母マリア　ミト）

右の方よりご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

感謝のうちに

（平和のばら保育園）

ありがとう！

神様から、太陽のプレゼント。大空のプレゼントをいただき、九月二十七日、平和のばら保育園第四十二回運動会が行われました。

さわやかな秋晴れに恵まれ、厚い陽射しの中ではありましたが、子どもたちは、かけっこ、遊戯と元気いっぱい。今年の平和太鼓は「真っ赤な太陽」「キミに一〇〇パーセント」の曲にのせて披露しました。

保護者様、ご来場の皆様にも色んな競技に参加していただき運動会を盛り上げていただきました。

小学生、中学生も多く参加し、にぎあわせてもらいました。

来賓の神父様には、いつものように職員の仲間に入り、職員の一人として競技に参加し、自転車こぎに張り切ってもらいました。有り難うございました。

皆様の協力とたくさんの声援のうちに楽しいひと時を過ごした運動会でした。

ありがとう

今回も「島のひかり」へのおたよりや、御芳志等の協力頂きまして、ありがとうございます。二〇〇号からの始めの一歩から大事に頑張って行きたいものです。

三田市　梅木　栄三郎　様
福岡県　赤崎　岩光　様

ふるさとだより

夕やけマラソンに参加して

鍋内　美保

八月三十日、第二十八回夕やけマラソン五キロの部に初めて参加しました。

大阪にいる妹から「ハーフを走ろうと思うんだけど、姉ちゃんも走らん？」「いいよ。」と軽い返事をしてしまったのがきっかけでした。五キロだったら走れるかもと思い、少しずつですが家の近くを走って練習しました。

大会当日、天気も良く夕方は涼しくなってきました。まず、ハーフの部に出場する人達をスタート地点で応援して十五分後に五キロの部スタート。

五キロは、町中を二周する形で、私は周りを見る余裕がないくらい一生懸命走りました。たくさんの声援と拍手に元気をもらいながらのゴールとなりました。妹も無事に完走しました。

応援して頂いてありがとうございました。ゴール後の五島牛も最高でした。

第二十回ナイターペタンク 台風のごとく

毎年恒例のナイターペタンク大会が、去る九月二十五日から二十七日にわたり行われた。今回は、台風十六号の影響で二日遅れの開催となり、期間も三日間と短縮。そのためリーグ戦を取りやめトーナメント戦に変更となった。ひとつ負けたらもう試合が出来ない為、参加者はいつもより真剣そのもの。最終日の抽選会は大いに盛り上がり、秋の夜長に大歓声が響き渡った。

〝油採ったどー!!〟

以前は、生活の糧（かて）であった椿油。ここ五島は生産量日本一になった事もあり、東の大島、西の五島と東西の横綱として知られる。子供達にその誇りを感じてもらい、実際に最初から最後まで、椿油作りを体験させてみようという試みがなされた。九月六日雨の合間をぬって雁木でかたしを引っかけながら、落としていく。収穫は十六kg。学校の協力の元、乾燥し三kgの実が採れた。臼（うす）と杵（きね）で実を細かくし、茹（ゆ）で、濾（こ）して、水分をとばして真（ま）っ新油（さらあぶら）が一杯半。いっぱい笑顔も出来上がり。

編集後記

秋の夜長、太陽が西の空に沈む頃から、屋外ではコンサートが始まります。これは秋限定の虫達の合唱で、田舎ならではの特権です。

そして秋といえば、誰もが口にする、読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋です。奥浦では毎年、九月の中旬になると奥小グラウンドでナイターペタンク大会が行われる。三人一組で一二八チームが参加する。賞品も豪華で皆さん大ハッスル。害虫もいっぱい応援に掛け付ける。

話は変わりますが、私こと今年で六十五歳となり高齢者の仲間入りとなりました。

ある日、ラジオを聞いていると、幼児は昨日出来なかった事を今日は出来る様になっている。一方高齢者は、昨日まで出来ていた事を今日は出来なくなっている。まさにその通りだと思っています。年を取りたくないネ。

竹山　要司